

このニュースはFAXとメールで送信しています。地域民報への転載、各支部への配布にご活用下さい。

さっぽろ

市議団ニュース

2014年10月16日

No.114

日本共産党市議団事務局発行
電話 211-3221 FAX218-5124

生ごみ堆肥化をすすめよ 小形かおり議員が質問

日本共産党の**小形かおり議員**は14日の札幌市議会決算特別委員会で、生ごみの減量や堆肥化する問題について質問しました。本市のごみ処理量62万4075トンのうち家庭ごみは約65%、そのうち生ごみは42.3%を占めています。**小形議員**は「家庭ごみの42.3%を占める生ごみを減らすことにカギがある」と指摘しました。

2012年度と2014年度に行われた生ごみ関心度調査の中で、「生ごみの堆肥化は有効だ」と答えた人はともに8割を超えている一方、「堆肥の使い道がない」、「冬場の堆肥化に困る」という声も多く上げられています。**小形議員**は、「堆肥の行先をどう解決していくのかということを含めて、堆肥を作り土にする循環型の街づくりを全市に広げていくべきだ」とただしました。

富田秀則環境事業部長は「堆肥の使い道の検討も必要」としながらも「各家庭による水切りを中心に減量に努めていきたい」と答弁し、家庭での生ごみの水切りにとどまる答弁に終始しました。

木質バイオマスの活用・普及もとめる 宮川潤議員が質問

日本共産党の**宮川潤議員**は14日の札幌市議会決算特別委員会で、木質バイオマスの利用促進を求めて質問しました。市内では年間約5万3千トンの建設廃材が出ており、木材加工会社からの廃材(切りくず、おがくず)は1千百トンが出ています。そのうち約9百トンが産業廃棄物に、約160トンがペレット化して販売され、残り約40トンが工場内の燃料として活用されています。

宮川議員は熱量の単位当たりの価格で重油11.2円、灯油12.4円、ペレットは10.1円となっていることを示し、「現在石油価格が上昇していることもあり、ペレットの価格は石油と十分勝負できる状況だ」と指摘し、環境面からだけでなく活用のメリットを示しました。さらに「ペレットは夏・冬通じて同じ量で平均して消費されるのが理想。ストーブよりも例えば温水プールなどで活用すれば普及も進むし、また学校や他の市有施設でペレットボイラーを導入すれば、民間も刺激しリードするのではないか」と具体的な提案を示しました。

木戸寛環境都市推進部長は「ペレットボイラーは市内小中学校、動物園に現在12基設置しており、今年度は新たに4基を導入する。引き続き、市有施設の新改築の機会に合わせて検討をすすめていく」と答弁し、今後も利用拡大をはかる姿勢を表しました。